

『播磨国風土記』の中で  
最も心惹かれる物語だ

—— 梅原 猛



梅原 猛

梅原 猛 書き下ろし

新作能

は り ま  
針 間

— 牛飼いから帝になった二人の皇子の物語 —

『古事記』に続き、本年『播磨国風土記』は  
編纂 1300 年を迎えます。

『播磨国風土記』の中心地「加西市」では、市をあげて記念祝祭を企画いたしました。能・狂言の両世界に精通されている能楽方藤田流十一世家元、藤田六郎兵衛氏を総合プロデューサーに迎え、この風土記で語られる「根日女」の物語を野村萬斎氏が新作狂言に監修。オーディションで選ばれた 27 人の播磨の子供たちが稽古を重ね、萬斎氏と狂言師の皆さんと上演いたします。また『播磨国風土記』に描かれた物語の中より、牛飼いから帝になった二人の皇子の物語を、梅原猛氏に新作能『針間』として書き下ろしていただきました。監修は観世流シテ方大槻文蔵氏。舞台上に梅若玄祥氏、大槻文蔵氏、観世鍔之丞氏ほかを迎えての上演が、5月4日（みどりの日）加西市で実現する運びとなりました。

2015年3月16日(月)

於 国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1  
www.ntj.jac.go.jp

(開場14時20分 開演15時 終了予定16時半)

15時 ● 講演 梅原 猛 —牛飼いから帝になった二人の皇子の物語—  
15時30分 ● 解説 新作能『針間』 藤田六郎兵衛  
16時 ● 半能 『針間』 (新作能のハイライト部分をご覧ください)

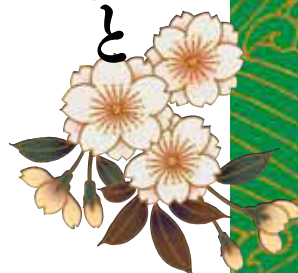
[出演]

兄・おけ王(後の仁賢天皇) 大槻文蔵  
弟・をけ王(後の顕宗天皇) 大槻裕一  
小 盾(国司) 梅若玄祥 伊等尾(志染村の首) 福王和幸  
地 謡 観世鍔之丞 ほか  
笛 藤田六郎兵衛 小鼓 田邊恭資 大鼓 山本哲也

お問い合わせ

加西市役所 ふるさと創造部 播磨国風土記 1300 年事業推進室  
〒 675-2395 兵庫県加西市北条町横尾 1000 TEL : 0790-42-8756 (直)  
<http://www.fudoki1300.city.kasai.hyogo.jp/>

先着300名様を無料でご招待  
卒寿を迎えた梅原猛氏の講演と  
新作能披露公演に



藤田六郎兵衛

## 梅原 猛 (談)

この二人の皇子の話は、『播磨国風土記』の中でももっとも興味をひかれる物語です。その物語を、皇子たちのゆかりの地で上演できるというのが、またすばらしい。そういう物語を持ち、それを現代によみがえらせ、伝承しようとしている加西市は、きっと大変豊かな土地柄なのだろうと思います。古代は出雲と直結していた地でもあります。実際、古代の王たちの物語の中でも、牛追い・馬飼いという奴になりながら、その後、帝になったというような話はこれが唯一だと思います。「帝と奴」というテーマは、私がヘーゲルで語る「主人と奴隷」に通じる心理劇で、それを二人の皇子の物語として、おもしろくもかなしく仕立てることができました。また、この兄と弟が、兄は気のいい優しい男、弟は自分の現状に我慢ならないきかんきな男、と全くキャラクターが違いながら、互いを思いやる愛を持っている。それもこの物語を感動的なものにしていきます。この能が出来て大変うれしく思います。

### 『針間』あらすじ

意奚 (おけ) と袁奚 (をけ) の父・市辺押磐皇子 (いちのべのおしはのみこ) が皇位継承争いから近江国で殺された。2人の皇子は日下部 (くさかべ) 連に導かれ、志深 (しじみ) 村の岩室に隠れ転々とするが、志染村首・伊等尾 (いとみ) の家で下男として仕えることになった。《披露公演ではここから上演致します》ある日、伊等尾が催す新築祝いの宴で歌を所望された弟の袁奚は、歌い舞いながら、ついにその歌詞で自らの正体を明かす。国司の少楯 (おだて) はこれを報告。2人の皇子は、都に迎えられ天皇となった。

お申込み先FAX **0790-42-8745** (締切 3月5日)

2015年3月16日15時開演 (於: 国立能楽堂) の

新作能「針間」(無料招待) に申し込みます。

氏名 \_\_\_\_\_ 名

住所 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

先着 300 名様に限らせていただきます。係より、はがきでご返信いたしますので、当日はそのはがきをご持参ください。